

よねざわ

市議会だより

Yonezawa City Council

Vol.158

令和2年2月1日

6月

3月

9月

12月
定例会

能楽 金剛流

米沢の能楽に金剛流が伝えられたのは、上杉家との深い関わりがあります。米沢藩四代藩主綱憲公は、金剛流宗家の弟、五郎四郎を米沢に招いて藩士に指導を受けさせました。さらに観覧をさせるなど能楽の発展に努め、米沢をはじめ置賜二円に金剛流を広めました。

特に、八代藩主重定公は、家臣を金剛流宗家に派遣し修行させるなど、ますます金剛流が盛んになりました。

現在は、金剛流若宗家より指導を受け、「米沢金剛会」が伝統ある文化を後世に伝えるべく長井金剛会、川西松謡会と二体となり活動を続けています。





▲最終日に行われた委員長報告の様子

12月定例会

11月29日～12月19日

議案23件を 原案のとおり可決

令和元年12月定例会は、11月29日から12月19日までの21日間の会期で開会しました。

初日の本会議では、議案17件を各委員会に付託しました。

12月3日及び4日には8名の議員による一般質問を行いました。

5日には本会議を開き、追加議案6件を上程し、所管の委員会に付託しました。

9日には総務文教常任委員会、10日には民生常任委員会、11日には産業建設常任委員会をそれぞれ開き、議案の審査を行いました。

12日には予算特別委員会を開き、補正予算案件7件について審査を行いました。

最終日の19日の本会議では、各委員長報告を行い、議案23件を全て原案のとおり可決し、12月定例会を閉会しました。

委員会報告

各常任委員会から質疑の主なものをお知らせします。



総務文教

▼置賜総合文化センターの指定管理者の指定について

本案は、置賜総合文化センターの管理を行わせる指定管理者について、令和2年度から5年間指定しようとするものです。

〔委員〕 指定管理者の公募への応募資格で「山形県内に本社、本店等のある団体」とする地域要件について、これを緩和することで、能力のある団体に参入を促し、企業誘致にもつながると思うが、要件の緩和は考えなかったのか。



▲置賜総合文化センター

〔社会教育課長〕 置賜総合文化センターは市民に親しまれている施設であるため、市民の要望に応じられる地元団体に応募してほしいとの思いがあり、地元を中心に考えてきました。

〔総合政策課長〕 応募がないときには地域要件の緩和なども検討したいと思います。

〔委員〕 募集期間に応募者がなく、再募集で1者のみ応募があったようだが、どういう経緯でそうなったのか。

〔社会教育課長〕 これまでの実績をもとに管理経費を査定して公募しても応募がなかったことから、労務単価の高騰分や消費税率の引き上げ分、消防法に基づく定期点検手数料などを盛り込んで再査定して募集を行ったところ、応募があったという経過があったものです。

〔委員〕 当局で査定した管理経費と、業界の実態が乖離していることはないのか。

〔財政課長〕 管理経費は市が直営で管理する場合を基本としています。今回の公募に向けて現指定管理者からさまざまな聞き取りを行います。本件に関しては、清掃業界の人手不足の実態があったので最初の査定でも一定程度経費について考慮したところですが、再募集に際しても内容を精査して、さらに査定額を引き上げました。今後もさまざまな情報収集を行いながら、適正な金額となるよう努めていきます。

◎採決にあたって（意見）

〔委員〕 一定程度公募に競争が生まれるよう、最初の募集期間に応募がなかったことを

課題として捉え、人件費がどんどん上昇しているという事業者側の実態に即した対応を求めるが、本案には賛成する。

〔委員〕 指定管理施設の従業員の給与が行政当局で積算した人件費の単価どおりに支払われていないという全国的な問題に対し、給与の支払い状況を確認したり、積算のおとり支払うよう促したりする自治体もあり、本市においても検討していただきたいが、本案には賛成する。

民生

▼米沢市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について

本案は、家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準の一部改正に伴い、所要の改正を行うものです。

〔委員〕 この改正によって、各保育施設と子どもの受け入れに関する連携を確保しなければならぬ事業所内保育所は本市にあるか。

〔子ども課長〕 本条例の改正により影響を受ける事業所内保育所は、地域型保育事業に属する事業所内保育所であり

ますが、本市の事業所内保育所は、いずれも認可外保育施設に属することから影響はありません。

▼米沢市健康長寿のまちづくり推進条例の設定について

本案は、健康長寿のまちづくりの基本理念を定め、市の責務等を明確にするとともに、市民の健康づくりに必要な事項を定めることにより、健康長寿のまちづくりを総合的かつ計画的に推進するため条例を設定するものです。

〔委員〕 本条例に、健康格差の縮小につながる施策に取り組む旨の規定があるが、どのような施策を実施する予定なのか。

〔健康課長〕 病院が住んでいるところから離れていることにより受診が難しい方、家庭環境により十分な教育と食事を得られない子どもなどが、生活環境に左右されず健康に暮らせるような施策を実施したいと考えています。

〔委員〕 健康長寿日本一を目指すに当たっての具体的な取り組みは考えているか。

〔健康課長〕 本条例の制定を検討する以前に、健康長寿のまちづくりを実現するために取り組む課題を挙げた健康長寿日本一推進プランの素案を

作成しています。この推進プランに基づいて健康長寿日本一を目指す具体的な取り組みを考えていきます。

〔委員〕 健康長寿日本一を目指すには、さまざまな事業を全庁的に取り組む必要があると思うことから、各課等の実施内容等を明確化すべきではないか。

〔健康課長〕 まずは、健康課が主体となって事業を進めていき、全庁的な事業についてはプロジェクトチームや市長を本部長とする推進本部に諮り、横断的に事業を進めていきたいと考えています。

産業建設

▼米沢市森林体験交流センターの指定管理者の指定について

本案は、米沢市森林体験交流センターの管理を行わせる指定管理者について、令和2年度から3年間指定しようとするものです。

〔委員〕 指定管理者として指定する米沢市森林体験交流センター管理組合の組織は、

〔農林課長〕 当該組合は、地元の12名の方で構成されていて

ます。また、施設には、白布温泉の源泉を引いていることから、温泉施設の管理などの専門的な知識を有する温泉旅館経営者を含んでいます。

〔委員〕 指定期間中、老朽化により大規模な改修が必要になった場合の対応は。

〔農林課長〕 これまでの検討の中で、大規模な改修をせずに存続できる期間を3年間としましたが、仮に大規模な改修が必要となった場合には、これ以上の費用をかけることは難しいため、白布地区の皆さんと対応について協議をすることになります。

〔委員〕 指定管理期間終了後の施設の利活用方法は。

〔農林課長〕 この施設は、3年後をもって廃止したいと考えており、今後地元の皆さんから施設のその後の方向性について提案をいただくほか、民間の力を活用した方策の可能性も模索しながら協議を進めたいと考えています。

▼玉の木町住宅等の指定管理者の指定について

本案は、玉の木町住宅等の管理を行わせる指定管理者について、令和2年度から5年間指定しようとするものです。

〔委員〕 管理する市営住宅の修繕の対応は。

〔建築主幹〕 市営住宅の修繕費は年間約1800万円かかっていますが、その3分の2を小規模の修繕対応分として指定管理料に含めており、残りの3分の1は、都市整備課の予算で修繕の対応をしています。

〔委員〕 経費における審査点数がゼロとなるケースが増えているのは、業者の人件費などの経費削減が限界に近づいているのではないか。

〔建築主幹〕 経費の積算の内訳として人件費の占める割合は大きいところですが、人件費や固定費の上昇分などを適正に算定して業者の過度な負担につながらないようにしたいと考えています。



▲白布にある米沢市森林体験交流センター



日本共産党市議員
たかはし ひでたか

高橋 英夫 議員

本市における地球温暖化対策の取り組みは

米沢市地球温暖化対策実行計画は始まったばかりだが、平成9年施行の米沢市環境基本条例から数えると22年の積み上げがある。本市における地球温暖化対策の進捗状況はどうか。また、課題は何か。

の進捗状況は、温室効果ガス排出量実績が二酸化炭素換算で1万7838トン、平成26年度の1万9852トンからの削減率は10・1%です。また、第2期米沢市地球温暖化対策実行計画における温室効果ガス削減目標は令和2年度までに4・9%であるので、その目標は達成しています。課題としては、省エネ性能

の高い設備への更新には費用がかかること、また、市民、事業者等の地球温暖化対策に関する意識醸成をいかにできるかであると考えています。福島県では、平成24年に再生可能エネルギー推進ビジョンを打ち出し、2040年段階で県内のエネルギー需要の100%相当を再生可能エネルギーに転換することとした。また、国内外の企業や世界最先端の研究機関が立地する一大産業集積地をつくる構想を掲げている。

その後、郡山市に福島再生可能エネルギー研究所が設置された。その構想が一気に具体化し、被災三県の地元企業との共同研究や事業化が加速している。同様に、本市の企業が一緒に再生可能エネルギーの事業化に取り組み、産業の活性化と温暖化対策の推進に貢献することは可能だと思いが、このような発想と施策を計画に織り込んでどうか。

〔市長〕再生可能エネルギーについて、豪雪地帯である本市でどのように活用できるのかなど、今後いろいろと研究していきたいと思っています。



▲「全国地球温暖化防止活動推進センター」ウェブサイト (<http://www.jccca.org/>) より (温室効果ガスのメカニズムを簡略化して表したもの)



市民平和クラブ
しみんへいわ

影澤 政夫 議員

地方自治法・地方独立行政法人法、地方公務員法改正に伴う本市の取り組みは

内部統制制度の導入はあるか。また、住民訴訟関連制度の改革をどう考えているか。〔総務部長〕内部統制制度は、財務に関する事務などの適正な管理及び執行を確保するための方針を策定し、体制を整

備するものです。本市では、県や先行市町村の取り組みを参考として、導入について今後検討していきます。また、地方公共団体の長等の損害賠償責任の見直しについても、他市町村の動きを注視しながら検討していきます。来春任用予定の会計年度任用職員の勤務条件はどうか。また、本制度での本市独自の

施策はあるか。〔総務部長〕勤務条件等については、現在、職員団体と協議中です。本市独自の手当や休暇を定めることは困難ですが、募集等の運用面で工夫できることがあれば取り組んでいきたいと考えています。本市における監査制度の充実強化はどう考えているか。〔代表監査委員〕現在、監査基準の策定に取り組んでおりますが、あわせて、実施要領の整備についても進めていきたいと考えています。

生活困窮者自立支援法に基づく支援制度の現状と課題は 本市の場合、相談窓口と手続窓口が分散しており、相談者を混乱させている。新たな総合窓口の設置に向けた推進委員会を組織し、早急に検討すべきではないか。〔健康福祉部長〕各課の実務担当者による地域福祉在り方検討会では、当事者が抱える問題を包括的に受けとめ、各制度の支援機能をコーディネートし、解決に向けた進捗を見ていくような総合相談支援機能が必要ではないかと

課題認識を持っています。また、国の地域共生社会推進検討会では、包括的支援体制の先進事例も紹介しているので、どのような組織体制が望ましいか検討していきます。





日本共産党市議員
たかはし としあき

高橋 寿 議員

「子育て支援策」の実施時期を示すべきでないか

市長は、先の市長選で「高校3年生までの医療費無料化」を公約に掲げた。新年度からの実施と考えてよいのか。

実施したいと考えています。実施時期については、まちづくり総合計画の実施計画や予算編成の中で示していきたいと考えています。

らの実施予定が2市、他はすでに実施しています。置賜管内では南陽市、長井市が実施しており、高島町は令和2年度から実施予定です。本市においては、令和3年度の新入生から実施できるよう準備を進めているところです。

学校、コミセンなど「避難所」の備品運営は万全か

台風19号では、コミセンなどに開設した「自主避難所」



いて、子育て支援全体で判断していきたいと考えています。

に高齢者や障がい者等が避難した。備品、運営の点で課題を残したと考えるがどうか。

〔市民環境部長〕 今後、冷・暖房機器のレンタル企業と、災害応援協定等を進めたいと考えています。また、段ボール式ベッド等の備蓄もしていきたいと考えています。

避難所運営については「避難所運営マニュアル」の改定、避難所への派遣職員の選定など、スムーズな運営ができるようにと考えています。



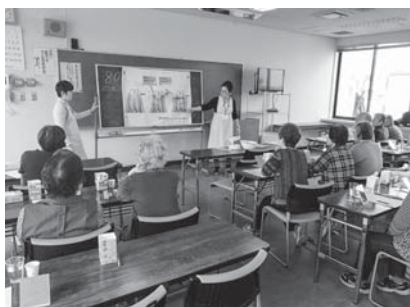
一新会
さいとう ちえこ

齋藤千恵子 議員

口腔機能を向上させて健康寿命を延ばすには

口腔機能の衰えを意味するオーラルフレイル。口の健康に関心を持ち適切に対応することが、健康寿命を延ばす鍵となる。その対策とチェックをどのように考えるか。

把握し、個人の状態に応じた適切な介入が必要と考えます。本市では、フレイルの身体的、精神的、社会的側面などをチェックできる基本チェックリストを活用しています。これは、生活機能低下のおそれのある高齢者を早期に把握し、高齢者が自身の状況を認めるための有効な方法にもなっています。



▲通いの場におけるフレイル予防

国では、高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施の流れがあるようだが、今後どのようにしていくのか。

〔健康福祉部長〕 国では人生

学校教職員のメンタルヘルス支援の取り組みは

本市教職員のメンタルヘルス支援の現状はどうか。

100年時代を見据え、高齢者の健康事業と介護予防の一体的な実施に向けた体制整備等を行い、順次実施していくこととなりました。

援体制を整えています。教職員が心身ともに健康で、子どもたちに向き合うことが、教育力の向上につながると考えるが、メンタルヘルス支援を進めていく上での課題はあるか。

〔教育長〕 大きな課題は、教職員の意識改革だと思えます。あり方、生き方の見直しという点から自分の生活を見直し、趣味を楽しむなど人間的魅力いっぱいのが教員として子どもの前に立つことが自分のメンタルを保つことにつながると考えます。



明誠会
めいせいかい

古山 悠生 議員
ふるやま ゆうき

まちの骨格となる公共交通を

持続可能なコンパクトなまちを目指すには、骨格となる公共交通の整備が必要である。どのように進めていくのか。

〔企画調整部長〕都市機能としての利便性、効率性、持続可能性をさらに高めていくためには、市民が地域公共交通の必要性について意識を高く

め、積極的に利用していただくことが重要です。さらに市民が利用しやすい公共交通網形成の実現に向けて、計画策定に取り組んでいきます。

図書館のさらなる利活用を

全国各地で、図書館を中心としたまちづくりが進められている。まちのにぎわい創出にも期待が持たれているが、



▲図書館の持つ可能性を広げ、さらなる利活用を

本市では、図書館の利活用をどのように進めていくのか。〔教育長〕「暮らしの中に図書館を」を合言葉に、利用者に



一新会
いっしんかい

成澤 和音 議員
なりさわ かずね

みんなが集う屋内遊戯施設の早期整備を

屋内遊戯施設の候補地や完成時期について、いづごろを目標としているのか。

〔市長〕屋内遊戯施設の整備については、早急に庁内での検討チームを立ち上げて進めていきたいと考えています。

まちづくり総合計画第3期

実施計画に掲載し、来年度から具体的な場所や内容の検討に着手し、4年以内に完成させたいと考えています。

屋内遊戯施設内にファミリィ・サポート・センターなど、現在市内に点在している子育て支援機能をあわせて、米沢の子育て支援の中核、拠点となる施設をつくれなにか。〔健康福祉部長〕施設が開所

した場合、利用される多くの方が、情報交換を行うなど、お互いの悩みを解決できる方法を求めるとしています。そのような形に应运えていけるよう、今後検討を行っていきます。

民間活力を使った自然共生型アウトドアパークの整備を

民間活力を活用し、大森山森林公園や成島ワクワ克蘭ドを収益的なものを取り入れた体験型施設にすることで、公園の維持管理をできないか。

〔産業部長〕最近は大規模な開発をすることなく、森林や夏場のスキー場を有効に利用

愛される図書館を目指しています。また、図書館休館日を利用したウッドデーコンサートは、ナセBAの新たな集客の目玉に定着しつつあり、さらに、博物館で所蔵する美術品等の展示などについても検討し、新たな利用者の開拓にも努めたいと考えています。

米沢市の目指す教育とは

米沢市立学校適正規模・適正配置等基本計画に基づき統合が進められているが、保護者の方はイメージができていない。今後、合意形成を含め、どのように進めていくのか。

した体験型の自然共生型アウトドアパークが、民間事業者によって展開される事例もあります。

また、都市公園法の改正で創設された公募設置管理制度（Park・PFI）により、民間資金を活用した公園の新たな整備、管理手法を取り入れ、都市公園の質と利用者の利便の向上を図る自治体もあるようです。

大森山森林公園については、市内を眺望でき、森林に囲まれたすばらしい場所にあることから、今後も多くの人に利用いただけるよう努める必要

〔教育指導部長〕基本計画の周知を丁寧に行います。また、地域や保護者の方から「子どもにとってよい環境とは」といったテーマ性の御意見等も頂戴しながら、合意形成に向けた話し合いをしていきます。

教育長が考える、米沢市が目指すべき教育とは何か。

〔教育長〕本市が目指している子ども像に「がってしない子ども」というのがあります。「人は、人を浴びて人になる」、少々のことでもへこたれない子どもを育てていくために、教職員一丸となって頑張りたいと思っています。

があります。民間の活力を活用して体験型の施設を整備する手法を全国の事例を参考に研究したいと考えています。



▲大森山森林公園全景イラスト



さくらだもん
櫻田門

関谷 幸子 議員

**地球温暖化の影響への対応と
防止への取り組みは**

防災ハザードマップの見直しはあるのか。

〔市民環境部長〕新たな浸水想定区域が公表されたことによる市全体の防災ハザードマップを令和元年度末ごろに全戸配布を予定しています。さまざまな場面で防災ハ

ザードマップのPRを行い、住民の防災意識の高揚を図っていきます。

小中学校では温暖化防止についての教育を行っているか。

〔教育長〕さまざまな教育活動の中で環境に関する学習を行っており、地球温暖化についても学んでいます。子どもたちは、地球温暖化を身近な問題として捉えています。今



しみんへいいち
市平和一郎

小久保広信 議員

**第2期米沢市子ども読書活動
推進計画の取り組みは**

第1期計画の取り組み状況や成果等を整理し、新たに今後取り組むべき施策を加えて、第2期米沢市子ども読書活動推進計画を策定としているが、第1期の成果は何か。

〔教育長〕成果は、平成28年ナセBAの開館により、市立米沢図書館の児童図書を充実させたほか、読み聞かせができる「おはなしのへや」の整備等により、親子で読書に親しめる環境が向上しました。また、平成28年度から開始したブックスタート事業は、今年10月までに1524組の親子に絵本を提供しました。その結果、18歳以下の図書

後も深刻な問題として捉え、自分たちのこととして意識できるよう取り組んでいきます。

**「健康長寿日本一のまちづくり」
実現に向けた取り組みは**

今後、どのように推進していくのか。

〔健康福祉部長〕市民個々のライフステージに応じた心身の健康保持はもろろんのこと、教育、経済、産業、環境などあらゆる施策について、健康増進に寄与することに視点を置き、市民一体となつて取り組みを推進していきます。本市の地域資源を生かし、

※クアオルト事業を推進してはどうか。

〔産業部長〕日本型クアオルトの認定条件として、ウオーキングルート認定コースがあること、専門のガイドがサポートすることが挙げられます。

クアオルト健康ウォーキングが運動療法であることやコース認定を受ける必要があること、また市民の健康寿命延伸や滞在型観光の推進による交流人口の拡大など、目的を整理し、課題の洗い出しが必要で、クアオルト事業による最大の効果を得るには、官民一体となつて取り組むこ



利用者が増加している市立米沢図書館

館利用者登録数が平成26年度の4606人から平成30年度には6333人と、37%増加したほか、読書通帳、小学校巡回文庫、子ども向けホームページ「市立よねざわ図書館キッズサイト」の開設など、

新たな事業展開等により、図書館の「おはなしかい」の参加者も当初は435人が平成30年度に702人と、1.6倍に増加しています。

第2期米沢市子ども読書活動推進計画の重点施策は何か。

〔教育長〕家庭での読書を習慣づける「家読」を重点施策とし、「子どもも大人も一緒に、まずは何か読んでみよう！」をキャッチコピーに推進を図ります。家読を通して、身近に本があり、誰もがいつでも読書に親しみ、心豊かに暮らすことができるまち米沢を目指します。

とが必要になるため、先進地の事例を参考に研究していきたいと考えています。



**米沢市スポーツ推進計画の
今後はどのようなものか**

今年度から新たに重点的に取り組む施策が明らかではないが、後期5年間で総合的かつ計画的に取り組む施策は。

〔教育長〕健康長寿日本一を推進するため、東京オリンピック・パラリンピックを契機に、障がい者なども含めた多くの市民がスポーツに親しむ環境や機会の拡充、合宿誘致等によるスポーツツーリズムの拡大等を想定しています。

予算特別委員会

12月12日に開かれた予算特別委員会から、

質疑の主なものをお知らせします。

〔委員〕ふるさと納税について、本市の場合、返礼品なしの寄附は今年度あったのか。

また、他自治体でも取り組んでいるクラウドファンディング型のふるさと納税を実施してみているかどうか。

〔米沢ブランド戦略課長〕返礼品なしの寄附については7件で、金額にすると38万円ほどありました。

クラウドファンディング型のふるさと納税は「私たちのまちには、こういったまちにしたい」という決意表明のようなもので、その提案に対し、いかに共感してもらえるかが必要と考えています。実施については現在検討しているところですが。

〔委員〕10月から始まった幼児教育・保育無償化の対象について、認可外保育所の保育を必要とする子どもたちは上限3万7千円で補助することになっているが、親が就労していないなど保育を必要としない場合は、補助の対象にならない

らない。一方、幼稚園については、親が就労していないなど保育を必要としない場合でも補助対象になっているのは整合性がとれないのではないかと。米沢市独自の施策として補助対象にする必要があると思うがどうか。

〔こども課長〕満3歳以上の1号認定に関する幼児教育・保育施設については、現在、需要に対して供給が上回っている状況です。このことから、保育を必要としない場合であっても保護者の方は、無償化となる施設を選択できま

すので、保育を必要としない場合で認可外保育所を利用する方の補助については現在のところ考えておりません。

〔委員〕南原地区の養豚事業所について、市として現農場からの全面移転を求める考えなのか。

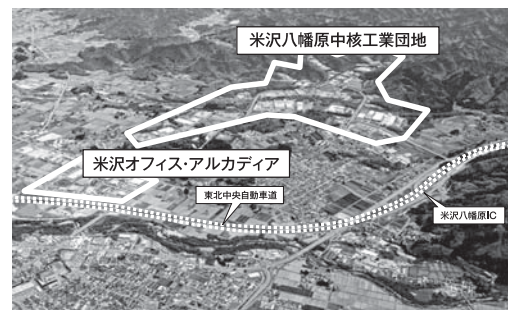
また、新農場建設計画に向けて、市も事業所と共に検討しているというが、今後の方向性は。

〔農林課長〕移転は、民間事業者の経営方針にかかわることなので、市が強制できるものではなく事業者の判断になりますが、畜産振興の継続には環境問題の解決は重要な課題でありますので、適切な臭気対策とともに新農場での規模を拡大しながら、環境問題の解決に努めていただきたいと考えています。

また、新農場の建設については、仮に建設できたらという前提での計画について、飼養管理の効率性も考えながら事業者とともに検討を重ねております。

〔委員〕ここ数年で企業立地が進み、米沢八幡原中核工業団地と米沢オフィス・アルカディアの区画も残りわずかとなったというが、新たな工業団地造成の考えはどうか。

〔市長〕これまでの積極的な企業誘致活動や高速道路の開通により団地への企業誘致が進んだことから、市内3つのインターチェンジ周辺の土地の再開発をどのように行っていくのかなど、目的や用途を考えた上で、新しい団地造成の方向性を今後示していきたいと考えています。



▲企業立地が進んでいる両産業団地

〔委員〕空き家対策について、本市の現状はどうなっているのか。

また、昨年度に空き家バンク及び空き家対策の専門部署が設置されたが、その成果はどうなっているのか。

〔建築主幹〕現在の空き家の戸数は令和元年10月1日時点で1165戸、昨年の10月1日時点では1208戸でありましたので43戸減少している状況です。なお、この1年間の増減内訳は、増加が70戸、減少が113戸となっており、減少した113戸の内訳は、解体が87戸、新たに利活用されたものが26戸となっております。

空き家バンクについては、平成30年11月1日より開設

し、令和元年12月9日現在で物件の登録数が24件、利用者の登録数が66件です。

なお、この約1年間で成約となった空き家が6件、現在交渉中の空き家が1件となっております。

新たに設置した空き家対策担当は、職員3名、再任用職員1名、臨時職員1名の体制となっており、業務は、通報による現場対応、窓口対応、空き家の相談、各書類の受付など幅広く行っているところです。このことにより、空き家件数の増加の抑制につながっていると考えられることから、新たに部署を新設した効果はあったものと捉えています。

〔委員〕令和元年台風第19号では、関東を中心にダムの緊急放流や洪水調整が行われたようである。水窪ダム、綱木川ダムは、大規模降雨災害時に事前放流を行うのか。また放流する場合の運用など関係機関や下流域の住民との調整はどうなっているのか。

〔危機管理主幹〕水窪ダムは貯水の時期にもよりますが、事前に放流し、水位を下げて貯水機能を確保することもあります。また、綱木川ダムは放流用のゲートがなく自然放流の構造となっているため、事

12月定例会で審議された議案

議案番号	件名	結果
議第66号	置賜総合文化センターの指定管理者の指定について	可決
議第67号	米沢市特別職の職員の給与に関する条例等の一部改正について	可決
議第68号	米沢市市税条例の一部改正について	可決
議第69号	米沢市会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の設定について	可決
議第70号	米沢市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部改正について	可決
議第71号	米沢市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について	可決
議第72号	米沢市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について	可決
議第73号	米沢市健康長寿のまちづくり推進条例の設定について	可決
議第74号	米沢市森林体験交流センターの指定管理者の指定について	可決
議第75号	玉の木町住宅等の指定管理者の指定について	可決
議第76号	市有財産（米沢八幡原中核工業団地用地）の処分について	可決
議第77号	特定事業（米沢市公営住宅塩井町団地建替等事業（1号棟））事業契約の一部変更について	可決
議第78号	特定事業（米沢市公営住宅塩井町団地建替等事業（2号棟））事業契約の一部変更について	可決
議第79号	特定事業（米沢市公営住宅塩井町団地建替等事業（3号棟））事業契約の一部変更について	可決
議第80号	令和元年度米沢市一般会計補正予算（第6号）	可決
議第81号	令和元年度米沢市国民健康保険事業勘定特別会計補正予算（第2号）	可決
議第82号	令和元年度米沢市立病院事業会計補正予算（第2号）	可決
議第83号	米沢市特別職の職員の給与に関する条例及び米沢市病院事業の管理者の給与等に関する条例の一部改正について	可決
議第84号	米沢市一般職の職員の給与に関する条例等の一部改正について	可決
議第85号	令和元年度米沢市一般会計補正予算（第7号）	可決
議第86号	令和元年度米沢市国民健康保険事業勘定特別会計補正予算（第3号）	可決
議第87号	令和元年度米沢市後期高齢者医療費特別会計補正予算（第1号）	可決
議第88号	令和元年度米沢市介護保険事業勘定特別会計補正予算（第3号）	可決

前放流はできません。放流の運用については、発電、上水道、農業の利水という面もあり、国でも運用について現在検討していることから、その動向も注視しながら関係機関や住民の方と連携して対応に当たりたいと考えています。

【委員】ナセBAについて、開館後約3年半たつが、この間の年度別の利用者数及び収入について教えてほしい。

また、こういった複合施設を維持していくためには、収益性のある施設を目指す必要と財政面で厳しくなっている。今後、収益性を高める仕組みづくりを考えなければならぬと思うがどうか。

【文化課長】ナセBA全体の利用者数については、平成28年度は36万2千人、平成29年度は37万6千人、平成30年度は36万5千人です。また、収入については、市民ギャラリーの使用料収入で平成28年度は104万5千円、平成29年度は131万7千円、平成30年度は203万2千円です。

なお、収益性を高める仕組みについては、こまの活用等、周辺商店街とも連携しながら仕組みづくりを検討していきます。

【委員】市民総体について、各団体等に実施したアンケート調査の結果から、今までのやり方を変える場合は、スポーツ団体はもちろん、学校、地域の行事や予算など、影響が広範囲に及ぶのではないかと考えている。決定した中身やその経過、今後の見通しなどを関係機関だけでなく市民へも周知してほしいがどうか。



▲市民総体（陸上競技）開会式の様子

く予定であります。また、市民への周知の方法等については、丁寧に対応していきます。

議会を傍聴してみませんか

本会議、委員会ともに、受付で住所、氏名などを記入するだけで、どなたでも傍聴できます。

お気軽にお越しください。



市議会のインターネット中継

米沢市議会では、インターネットのYouTube（ユーチューブ）により、本会議は録画中継、委員会は生中継及び録画中継をしております。

また、本会議は会議時間に合わせて、NCVのケーブルテレビ『022ch』で生放送を行っております。

どうぞご覧ください。

令和元年10月16～18日

総務文教常任委員会

●当委員会は20年後を見据えた本市のまちの将来像を構想しようとして活動しており、その目指すべき姿の一つである「コンパクト＋ネットワーク」のまちづくりを進めている各都市を視察してきました。

・栃木県宇都宮市
・山梨県周南市
・兵庫県姫路市

宇都宮市では、将来にわたって幸せに暮らすことができ、持続的に発展できるまちを目指すため、2050年ころまでの長期的なまちづくり構想として「ネットワーク型コンパクトシティ」を掲げています。

中心市街地に加え、郊外部の各地域にも身近な拠点を設け、その拠点内に生活利便施設を誘導するとともに、その地域内を走る公共交通と拠点を結ぶ公共交通を整備すること、誰もが利用しやすい公共交通ネットワークを構築し、各拠点を連携させるといったネットワーク型コンパクトシティの考え方のもと、さまざまな施策を展開していました。

周南市では、一定の人口密度の維持や都市機能の充実、公共交通ネットワークによる地域と拠点の連携を実現することで「多核多層ネットワーク型」のまちを目指しています。

そのため、中心市街地の歩行者通行量や若者の社会増減、移動手段が確保された地区の人口割合などについて、具体的な目標値と目標年度を定め、今ある生活サービス施設やまちの魅力を高める施設の維持・改善



▲福崎町・姫路市連携コミュニティバス「ふくひめ号」

をはじめ、女性や子育て世代を支える施設の充実、市民の生活を支える公共交通サービスの提供などといった施策を講じていました。

姫路市では、同じ中播磨圏域に属する、たつの市、太子町、福崎町とともに、医療・福祉・子育て支援・商業施設等を鉄道駅周辺などに誘導し、それを各自自治体で役割分担、相互連携することで、20年後も持続可能な圏域を目指しています。事業の一例として、福崎町と姫路市とが連携し、令和元年10月から新たなコミュニティバスの運行社会実験を行っており、その様子も実際に見てきました。

令和元年10月7～9日

民生常任委員会

●当委員会は住民主体の介護予防活動に取り組んでいる先進地を視察してきました。

・群馬県前橋市
・富山県黒部市
・東京都稲城市

前橋市では、市が開催する介護サポーター養成講座を受けた人が、自身の住む地域で住民と一緒に体操やそれぞれの趣味などを通して体を動かし、交流を図ることで介護予防に努めていました。この介護予防サポーターは養成講座を複数回受ける必要がありますが、千人を超える人が登録し、それぞれの地域で活動していました。

そのほか、平成25年から国のモデル事業として認知症の初期支援についても取り組んでいました。この支援事業は、本人やその家族などから認知症について相談や依頼があった際、医師や看護師などで構成された専門チームが本人宅に伺い、認知症の有無を確認し、また、認知症に対する理解を深めてもらうことで、本人とその家族と一緒に、認知症に対する今後の支援方針を決めていました。

黒部市では、前橋市と同じく養成講座を受けた地域支え合い推進員が、町内会や地域に密着し、週に1回以上の体操やスポーツを行い、趣味を深め、介護予防活動に努めていました。

稲城市では、市民が介護支援ボランティアとして介護施設などのお手伝いで体を動かしたり、催し物を企

画したりなど、自分に合ったボランティア活動をする中で介護予防に努めていました。こちらは、養成講座などの事前研修がないため、登録すればすぐに始められます。いずれの市の介護予防活動に共通したことは、介護予防活動に取り組むことで、健康寿命を延ばすことだけでなく、地域交流の希薄化の解消や本人の生きがいづくりを目的としていることでした。

また、各市で介護予防活動をしているサポーターや推進員、ボランティアは、その活動実績に応じた景品や現金を報酬として受け取ることができ、間接的に介護保険料を軽減することができるとなっていました。



▲前橋市での視察の様子

令和元年10月7～9日

産業建設常任委員会

当委員会は、リノベーションによるまちづくり、観光振興施策等、主に「観光」をテーマに視察を行いました。

・静岡県熱海市
・埼玉県秩父市
・埼玉県川越市



熱海市では、「熱海リノベーションまちづくり構想」について視察しました。訪れる観光客の減少や、まちの衰退を目にする中で、商店街の個人の取り組みから立ち上がったのが、リノベーションのまちづくりでした。

リノベーションの提案に空き物件のオーナーが物件を提供して、まちの魅力あるお店をつくっていく。将来の熱海をどうしたいか話し合っただけでいく構想に参加しようと集まる地元や外部の人たちの熱意を、専門のアドバイザーが事業実現の相談に乗りながら具現化しようとしているとお話を伺いました。

また、観光振興施策についても、平成25年度からの大手旅行代理店等と一緒にの観光ブランドプロモーションにより、大手企業のマーケティング力、情報伝達力を活用した上で、四季ごとにターゲットと、訴求するテーマを再整理しながら細かくプロモーションを行う手法についてお聞きしました。

秩父市では、秩父市を含む1市4町で組織した地域連携DMO、秩父地域おもてなし観光公社の設立から今日までの取り組みについて伺いました。

自主収益事業として、着地型旅行商品販売、農泊、広域レンタサイクル、物産販売を行っており、その利益でプロバーの職員を雇用しているとのことでした。観光に携わるほかの主体では取り組んでこなかった「どちらかというと難しく、もしかしら失敗するような事業」に進んで取りかかろう、実践していく地域連携DMOならではの活動が成功の秘訣とのことでした。

川越市では、「川越エリアリノベーション事業」を視察しました。リノベーションとは、利用されていない建物の使い方を、一度見直して、用途を変更し、新たなニーズに応える使い方をするといいものです。

視察では、飲食店、コワーキングスペースなどへのリノベーションを実際に行っている方々に現地でお話を伺う機会を得て、様々な実情をお聞きすることができました。



▲川越市のリノベーション店舗

天元台ロープウェイ視察

昨年6月7日、天元台ロープウェイの搬器が突風にあって支柱に衝突する事故が発生しました。

その後、ロープウェイは運行を休止して車両による代行輸送を行うとともに、搬器の修理に当たっておりましたが、その修理が完了したため、12月2日に現状視察を行いました。

当日は強風のため修理した搬器に乗り込むことはできなかったものの、修理箇所の確認をするとともに、今後の事故対策として変更した運行システムについて、(株)天元台の職員から説明を受けました。

運行システムの変更内容としては、

- ①風速15m/Sを感じると運行を瞬時に停止する装置、②速度1から4までの設定速度スイッチ、③事故が起きた3号支柱通過時の自動減速モード、④強風運行モードの設定があり、より安全な運行ができるようになります。

今後は、二度と同じような事故が起きないよう、万全な再発防止策により運行に当たっていただくことを望みます。



▶湯元駅での視察の様子

市役所新庁舎建設現場視察

昨年12月2日に、建設中の市役所新庁舎の現場を視察し、工事の進捗状況のほか、耐震構造や免震装置、地階部分の浸水時の対応などについて、現場代理人から説明を受けました。

昨年7月15日から工事に着手し、まず掘削工事、地盤改良工事が進められ、その工程が完了した後、躯体工事、鉄骨建方に移行しました。

工事の進捗状況としては、工程どおり順調に進んでいるとのこと。また、1月から3月中旬は降雪期のため休工していますが、降雪に影響のない1階床下の一部の工事は進めるとのことでした。

新庁舎は令和3年4月に完成する予定ですが、建物が新しくなるだけでなく、誰もが利用しやすい、市民に愛され親しまれる庁舎となることを切に願っています。



▲免震装置の基礎部分について説明を受けている様子

令和元年台風第19号による

被害状況を視察

台風19号による被害状況について、10月29日に農林業関係者、11月8日には道路・河川の被害状況を視察しました。

この台風19号は、板谷坂で累加雨量319ミリメートル、時間最大雨量37ミリメートル（10月12日21時～22時）、米沢で累加雨量208ミリメートル、時間最大雨量25ミリメートル（10月12日21時～22時、22時～23時）の雨量を記録しました。この豪雨は、山間部を中心に広範囲に被害をもたらしました。そのため、市議会としても、被害状況を把握し、的確な支援策を行うための視察を行いました。

農林業関係は、広幡地区の大日向りんご団地の延長約36メートル、幅約22メートル、のり面高約10メートルの排水路を含むのり面崩落現場と大字長手の海上地区の水路溝畔崩落19箇所と畦畔崩落43箇所を視察しました。



▲最上川上流河川緑地での視察



▶市道峠峯越線災害現場

欠壊、のり面崩土の現場と最上川上流河川緑地の山形県管理河川区域の園路洗掘と緑地洗掘の現場を視察しました。

◆請願・陳情の提出方法

◎請願とは

▼国や地方公共団体に意見や要望を伝える方法の一つで、地方議会に対する請願は、地方自治法の規定で、1名以上の議員の紹介により請願書を提出することになっています。

▼請願書が提出されると議長はこれを受理して、直近の本会議において所管の委員会に付託します。委員会で結論が出されたものは本会議で委員長から報告され、その報告を踏まえて最終的な結論（採択か不採択など）が出されます。

▼採択された請願は必要に応じて、その結果を市長や国の機関等に送付します。

また、これらの審査結果については、請願書の提出者にも通知します。

▼請願書は随時受付しておりますが、定例会（3月・6月・9月・12月）の招集告示日（定例会開会7日前）の午後5時までに提出されたものは、その定例会で取り扱うことにしています。

◎陳情とは

▼請願と同様、国や地方公共団体に意見や要望を伝える方法の一つですが、陳情書の提出は法的根拠がなく、紹介議員は必要ありません。

▼本会議に提出する意思があるか、提出者に確認した上で受理します。その後、陳情内容が請願に適合するかどうか、議会運営委員会で判断します。

▼本会議に提出しない場合や郵送されたものは、陳情書の写しを全議員に配布します。

※請願書・陳情書を提出される方は、事前に議会事務局へご相談ください。

なお、請願書の様式及び提出方法等については、米沢市議会のホームページからも確認できます。



車椅子利用の方も傍聴できます。

本会議場には、昇降機を利用して、車椅子利用者の方が傍聴できる席（付き添いの方を除き約5名分）があります。利用なさる方は、市役所正面玄関の総合案内にお申し出ください。議会棟へ職員がご案内いたします。また、事前に議会事務局にご連絡をいただきますと円滑にご案内することができます。なお、定例会は3月、6月、9月、12月に開会される予定です。

どうぞご利用下さい。 ●議会事務局 Tel 22 - 5111（内線 5623・5624）



◆令和元年12月16日

議員研修会

「対話による議会の活性化／質疑質問のあり方 ／住民意見交換・議員間討議の進め方」

令和元年12月16日に、早稲田大学マニフェスト研究所招聘研究員、長内紳悟氏を講師に、「対話による議会の活性化／質疑質問のあり方／住民意見交換・議員間討議の進め方」と題して、議員研修会を開催しました。

午前の研修では、質疑・質問によって対策や政策を実現させるためのスキルを学びました。

個人が捉える「現状」と「あるべき姿」のギャップである「問題」の認識は、ほかの人とは、その問題の現状認識・評価も、あるべき姿の描き方・理想の高さもそれぞれ違うので、その違いを「対話」によって共有し、皆の「課題」とすることが、対策や政策の実現のために大事なとのことでした。

午後からは、住民との意見交換や、議員間の意見のすり合わせにおいて有効なファシリテーションのスキルについて学びました。

ファシリテーションにあつては、話し合いを支援、促進するために、事前にさまざまなデザイン（参加者のデザイン、空間のデザイン、プロセスのデザイン、プログラムのデザインなど）を行った上で、実際の話し合いに臨むべきであり、

ファシリテーターは、話し合いの中身に入りこむよりも、話し合いの行方に働きかけを行うことが大事だと学びました。住民と意見交換するときに、住民がよりリラックスして話し合いに参加できるワールドカフェ方式のグループワークを実際に体験し、今後の意見交換の場に生かせるヒントを得ました。

また、議員が議会の中で議員間討議を上手に行っていくことで、住民対話などから得た貴重な視点を、課題の設定、対策・政策の提言や実現につなげていくことができるのだと、今後の議会活性化の指針を得ることができました。



▲グループワークの様子

◆令和元年11月11日

山形県市議会議長会 議会報研修会

「伝わる文章 読んでもらえる議会報作り」を学ぶ

恒例になりました議会報研修会が、去る令和元年11月11日東根市会場にて開催されました。県内13市から、議会報編集委員の議員、事務局担当者約90名が一堂に会し、よりよい議会報づくりについて勉強するものです。米沢市議会からは、佐藤弘司、関谷幸子、井上由紀雄の3名の議員が参加しました。

講師に山形新聞社東根支社長の小林達也氏を迎え、「伝わる文章 読んでもらえる議会報作り」との演題で講演をいただきました。内容は、13市全ての議会報をチェック、優れている点、工夫が必要な部分などアドバイスをいただきました。さらに、山形新聞の記事を活用して、「見出しで8割方内容がわかることが大事である」との指摘、また、写真のキャプションの入れ方など専門的な視点からの講演でした。

さて、米沢市議会の「議会だより編集委員会」は6名で構成され、定例会ごとに、3回の委員会を経て発行しています。第1回目は、編集方針、掲載記事の内容を決定する。第2回目は、一般質問をした議員が作成した原稿を読みやすく修正する。第3回目は、写真の選定やレイアウトの最終確認を行

う、などの作業・検討を重ねて完成します。

昨今は、IT化・デジタル化が叫ばれる時代ですが、一方で、アナログの、紙媒体で情報を伝えることも大切です。新聞や書籍、冊子などの紙のにおい、手の感触、ぬくもりはデジタルでは伝えることはできません。

以上の観点から、私ども、議会だより編集委員会一同は、定例会の内容、議会の現状、課題など、市民の皆様のご意見を伺いながら、心の通う誌面づくりに励んでまいります。



▲議会報研修会の様子

第5回



「中学校出前市議会」を開催



「危ない通学路なんとかすっぺ」をテーマとした朗読劇の様子

米沢市議会では市内の中学生を対象とした「中学校出前市議会」を、平成27年から実施しています。これは、選挙権が20歳以上から18歳以上に引き下げる改正公職選挙法が平成27年6月19日に公布され、平成28年6月19日に施行されたことを踏まえ、中学生の時から主権者としての自覚を持つてもらうこと、あわせて選挙や市議会の仕組み、議員活動の内容などを知ってもらうことなどを目的として始めたものです。今回で5回目となった「中学校出前市議会」の様子をご紹介します。

「第5回中学校出前市議会」は、昨年11月8日の第二中学校をはじめとして、11月29日の第七中学校まで市内全ての中学校で実施しました。対象は、今年度または3年生の1805人です。

今回は24人の市議会議員全員が3班に分かれ、それぞれの地域の学校を基本に訪問しました。まず、米沢市議会議員の人数や、議員がどのように選ばれるか、市議会議員以外の「議員」や選挙権年齢・被選挙権年齢などの選挙の仕組み、米沢市議会の年間の流れや議員の取り組みなどを、スライドを使ってわかりやすく説明しました。

その後、議員や議会の大事な役割である「地域の問題点や課題を取り上げて議会で一般質問を行い、問題解決を目指す」という流れを知ってもらったため、現実に即した朗読劇を披露しました。今回のテーマは「危ない通学路なんとかすっぺ」です。内容は、狭くて歩道もない通学路で自動車にひかれそうになった中学生の体験を聞いた「一所懸命議員」が、保護者や学校、生徒の訴えをもとに、地域と一緒に頑張って期成同盟会の結成や署名運動などに取り組みとともに、市議会一般質問を行いながら市に訴え、道路への歩道設置を実現していく、というものです。

朗読劇が終



▲模擬投票をする中学生



▲中学生の質問に答える議員

わってからは全体を通しての質問コーナーを設け、生徒の皆さんからさまざまな質問をいただきました。質問の数は回を重ねるごとに多くなり、鋭い質問も増えてきています。

最後に、投票用紙に見立てた紙に「理解できたかどうか」や感想を書いていただき、米沢市の投票所で実際に使用している投票箱に投票していただきました。このうち「理解できましたか？」の項目に対しては、ほとんどの皆さんが「理解できた」と回答しています。また、一部を紙面に掲載していますが、感想についても素晴らしい中身が数多く寄せられ、積極的な姿勢が強く感じられました。

米沢市議会ではこれまでの取り組みを検証しながら、よりよい形で引き続き取り組んでいきたいと考えています。

最後になりましたが、このたびも教育委員会や選挙管理委員会、各中学校の校長先生をはじめ教職員の皆様にご理解とご協力をいただきました。心から御礼申し上げます。

～中学生の感想～

●第一中学校

中学校出前議会

今回参加された皆さんの感想をお書きください。

公民の学習よりも詳しく、議会や議員のことを知ることができた。言葉の説明よりも朗読劇のほうが頭に入っているし、米沢の方言を使っていたのがおもしろかったです。1つの問題を解決するために、たくさん時間と時間がかかっている、おもしろい。米沢市が若者も老人も楽しめるようにしてほしい。これから期待しています。

●第二中学校

中学校出前議会

今回参加された皆さんの感想をお書きください。

今回の出前議会をきいて、私たちがいつも簡単に通学路を広くしてくれないかなとか、ガードレールをつけてくれないかななどと言っているけど、実は、たくさん話し合いをして、議会をしてすごく色んな過定を通して自分たちの考えが反映されているんだと知ることができました。18歳になったら、しっかりと自分の考えをもって投票したいです。

●第三中学校

中学校出前議会

今回参加された皆さんの感想をお書きください。

1件の要望にいろいろな人が関わって決められていることが分かりました。よりよい生活をするため真剣に丁寧な話し合いがされていて、すごいと思いました。私たちの生徒会でも真剣な話し合いがてきえるようにかんばりたいです。

●第四中学校

中学校出前議会

今回参加された皆さんの感想をお書きください。

一つの提案を議決するために、たくさん人が関わり、議員の皆さまの丁寧な努力が欠かせないことが改めて分かりました。「市民のために！」という気持ちがとても伝わって来ました!!議員の皆さまの「全力」を受け取り、私たちも「全力」で協力したいと思います。私もあと4年後には18歳になり選挙権という贈り物を頂きます。一票の重みを感じ、私も一人の有権者として、必ず投票に行き、自分が大切にしているものにしっかりと投票したいと思います。

●第五中学校

中学校出前議会

今回参加された皆さんの感想をお書きください。

どのような仕事をしているのかがよくわかりました。常に、市民のことを考えて視察に行ったり、要望を調査に行ったり、議会の内容も考えたりと忙しいな、と思いました。また、道路の改正をするときは、その周辺に住んでいる人だけでなく、色々な団体の方々にも知らせるから、また会議をして、報身になって考えてほしいことに感謝しました。本日はありがとうございました。

●第六中学校

中学校出前議会

今回参加された皆さんの感想をお書きください。

今回3回目の出前市議会をみて、1年生のときはよくわからずに話をきいていただけと今日改めてきいてみて18歳から投票できることや、被選挙権が25歳からできることを知ることができました。いろいろな意見を出し合いながら行われていることにたくさんの苦勞をしているのだと思いました。

●第七中学校

中学校出前議会

今回参加された皆さんの感想をお書きください。

今回の出前市議会では市議会の政治の循環内容や、どのようにして、市民の要望が実現されるのかを学ぶことができた。市民の意見を大事にする大切さを知ることができたので、今後の生徒会活動や将来に生かして、米沢に少しでも貢献したい。



中学校出前市議会の感想を、中学生の皆さんから記入していただきました。素晴らしい感想をいただきありがとうございました。

議会報告会・意見交換会について

今年度の『議会報告会・意見交換会』を、下記の日程で開催いたします。
市議会の各常任委員会で設定するテーマに関して、市民の皆様と意見交換をさせていただきたいと考えています。
詳細については、市議会だよりの号外・ホームページ等でお知らせいたします。
多くの皆様のご参加をお待ちしております。

日時：令和2年3月28日(土) 午後1時から
場所：米沢市すこやかセンター 大会議室 ほか

市議会3月定例会 日程(予定)のお知らせ

- 2月 25日 開会(本会議・きもの議会)
- 27日 代表質問
- 28日 代表質問・一般質問
- 3月 2日 一般質問
- 3日 予算特別委員会(補正予算)
- 4日 総務文教常任委員会
- 5日 民生常任委員会
- 6日 産業建設常任委員会
- 9日 予算特別委員会
- 10日 本会議(補正予算採決)
予算特別委員会
- 11日 予算特別委員会
- 12日 予算特別委員会
- 13日 予算特別委員会
- 24日 最終日(本会議)

※請願の提出期限は、2月17日(月)
午後5時の予定です。
日程は変更されることがあります
ので、傍聴の際は議会事務局まで
お問い合わせください。
TEL 22-5111 (内線5623・5624)

次は、「きもの議会」です。

昭和54年2月の臨時会で開催されて以来、毎年3月定例会
初日には「きもの議会」を開催しており、
令和2年3月定例会で42回目となります。

当日は、米沢繊維協議会の方にご協力
いただき、着つけが行われます。



全線開通に向けてまた一步 東北中央自動車道(相馬IC～相馬山上IC)が開通

本市議会において、「福島市・米沢市・相馬市・伊達市議会連絡協議会」
を中心に要望活動を行ってきた東北中央自動車道「相馬～米沢間」の
整備について、11月22日(日) 相馬IC～相馬山上IC間の約6kmが開通し、
福島JCT～米沢北IC間の37km、相馬IC～霊山IC間の33.5kmが開通し
ました。



残る霊山IC～桑折JCT間の
12.2kmについても、令和2年度
末まで開通する予定であり、東
北自動車道を経由して、相馬～
米沢間が高速道路で結ばれるこ
とになります。本市の観光振興・
産業の活性化等、さらなる発展
に大きく寄与するものと期待さ
れます。

あとがき

昨年は平成から令和へ改
元の年でした。祝賀ムード
のなか大嘗祭ははじめ一般参
賀など記念行事が粛々と執
り行われました。
年が明けて2か月たち、
新庁舎建設の槌音も響き、
令和時代の開幕が実感され
ます。

来月には、市制施行
130周年を記念した「NH
Kのど自慢」が放映され、全
国に米沢市が紹介されます。

夏には、東京オリンピック
ク・パラリンピックが開催
されるなど、節目の年でも
あります。

私ども議会だより編集委
員会は、決意も新たにこれ
まで以上に、皆様に親しま
れる議会報づくりを目指し、
結果をお知らせするだけで
なく、現在進行形の話題も
提供できる誌面づくりに努
めてまいります。

【編集委員 佐藤弘司】

○議会だより編集委員会○

- 委員長 小久保広信
- 副委員長 齋藤千恵子
- 委員 佐藤 弘司
- 高橋 英夫
- 関谷 幸子
- 井上由紀雄